

俳句

感性×楽しみ×新たな発見

とねり俳句会

活動日時：月1回 第1金曜日 午後1時30分～4時
入会金：なし 月会費：1,500円

仲間と楽しむ俳句

短冊に書いた無記名の句を、ひとり5首紙に書き、その紙を順番に回し、全員分の句を見る、という正岡子規の時代から行っている手法でとねり俳句会さんの活動が始まります。会員さんは、その中でじっくりと句を吟味し、「特選」という自分が最良だと思った句を選びます。皆さん句を吟味している時は真剣そのもの。無記名なので、誰が書いたということに惑わされずに、自分の心に響いた句を選ぶことが出来ます。また、自分が良いと思った句が選ばれなかったり、逆にダメだと思った句が選ばれることもあり、それもこの選句の醍醐味なんだそうです。



句を選んだら、一人ひとりが選んだ「特選」を読み、どこが良かったか感想を述べます。ここで、言葉の調子や意味などがより自然な形になるように、先生に添削をしていただきます。添削も堅苦しい雰囲気ではなく、「なるほど！」とみなさん納得していました。分からない部分も気軽に先生に質問をするなど和気あいあいとした雰囲気でした。

よりよく季節を感じられる

会員のみなさんは、講座やサークルで俳句を始めたばかりで、俳句について、右も左も分から



なかったそうです。しかし、毎月一生懸命考えた句がみなさんに詠まれるのを励みにしたり、先生に添削していただいて、少しずつ勉強しているそうです。そして何より、ほかの方の句を見るのが楽しみだと、みなさんおっしゃっていました。今回取材に入った時の季題は「時雨」「紅葉」「冬構へ」でしたが、季語一つをとっても、感じ方が違うのでとても面白いそうです。先生も、添削の時に「一人ひとりが感じた事を句にする、俳句は心の交流です」とおっしゃっており、自分の感性を素直に俳句にして良いのだということが伝わってきました。

また、俳句を始めてから、日常生活の中でも、物の見方が変わったり、周りへの気配りをするようになったそうです。今までは、何気なく見ていたものにも思いをはせて考えられるのも、俳句の魅力の一つではないでしょうか。

みなさんもとねり俳句会で、俳句を詠んでみませんか？

講師の柴原先生から一言

俳句はどなたでも出来る庶民の文芸です。難しく考えれば確かに難しいですが、俳句を作る為の季題はどこにでも転がっているのです。台所で大根をすってみても季題になります。何でも季題として取り上げることが出来るのです。皆さんもこぞって俳句を作りましょう！